世界冬の都市市長会
パンフレット

WWCAM
World Winter Cities Association for Mayors

2019 年 4 月現在

目　　次

ごあいさつ.....1
世界冬の都市市長会のあゆみ.....2
冬の都市とは.....3
世界冬の都市市長会の意義.....3
会員都市一覧.....4
活動内容
　世界冬の都市市長会議.....4
　冬の見本市と冬の都市フォーラム.....7
　実務者会議.....8
　小委員会.....9
　活性化事業.....10
　広報.....11
　国連登録ＮＧＯ.....11
組織と運営.....12
会員になるには.....13
主な活動成果.....14
入会申請書.....18
会議結果
　第 1 回札幌会議.....19
　第 2 回瀋陽会議.....21
　第 3 回エドモントン会議.....22
　第 4 回トロムソ会議.....24
　第 5 回モントリオール会議.....25
　第 6 回アンカレッジ会議.....26
　第 7 回ウィニペグ会議.....28
　第 8 回ハルビン会議.....30
　第 9 回ルレオ＆キルナ会議.....32
　第 10 回青森会議.....34
　第 11 回アンカレッジ会議.....37
　第 12 回長春会議.....39
　第 13 回ヌーク会議.....41
　第 14 回マールドゥ会議.....43
　第 15 回ウランバートル会議.....45
　第 16 回華川会議.....48
　第 17 回札幌会議.....51
憲章

“北方都市”から“世界の冬の都市”へ

私たち、“冬の都市”に住む市民は、『冬』の寒さや雪を大きな試練と考えがちです。確かにそういう側面もありますが、『冬』が我々に与えてくれる恵みも大きいことを忘れてはいけません。たとえば、雪が豊富な水の供給源として、あるいは、冬の観光資源として、“冬の都市”の市民にとって貴重な財産となっているのです。そこで、『冬は資源であり、財産である』というスローガンのもと、気候や風土の似ている世界の北方都市が集まって共通する課題について話し合うことを目的とする北方都市会議を 1982 年にはじめて札幌で開催し、以降、世界各地の北方都市で継続して開催してまいりました。

この会議の特徴は、都市経営の最高責任者である市長自らが会議に出席し、それぞれの都市が抱えている課題について市長同士が率直に語り合い、お互いに学びあうことであり、これまでも会議の成果をまちづくりに役立ててまいりました。

一方、近年のグローバル化と高度情報化の急速な進展により我々を取り巻く環境も大きく変わってまいりました。ヒト、モノ、サービスの国境を越えた移動が地球規模で拡大し、情報通信技術の発達に伴って国際社会の相互依存性も急速に高まっており、北方都市のネットワークも、それぞれの都市のニーズに見合った、新しい時代に即した展開が求められております。このような時代の変革の中で快適な冬のまちづくりを実現していくためには、北方地域の都市だけではなく、世界中の“冬の都市”が幅広い視点から『冬』の課題について話し合い、より多くの都市と力を合わせていく必要があると考えております。そこで、2004 年 2 月より、これまでの北方都市のネットワークを世界の冬の都市のネットワークへと強化・拡大し、組織も「北方都市市長会」から「世界冬の都市市長会」に改編することにいたしました。

このパンフレットを通じまして世界冬の都市市長会の理念と活動をご理解いただき、快適な冬のまちづくりを目指して、皆様とともに歩んでいくことができれば幸いです。多くの都市のご入会をお待ち申し上げております。

世界冬の都市市長会 会長

札幌市長 秋元克広

世界冬の都市市長会のあゆみ

“冬の都市”は、積雪寒冷の厳しい気象条件に適したまちづくりを行わなければならないという共通した課題を抱えています。「世界冬の都市市長会」は、『冬は資源であり、財産である』というスローガンのもと、気候・風土の似ている世界の北方都市が集まり、共通する課題について話し合い、快適な北方都市を創造することを目的に 1981 年に「北方都市会議」を札幌市が提唱したのが始まりです。

1982 年には第 1 回北方都市会議が札幌で開催され、6 カ国 9 都市が参加しました。会議はその後も継続して開催され、アジア、北米、ヨーロッパの北方都市の間に独自のネットワークが形成されました。また、1988 年にエドモントンで開催された第 3 回会議からは、経済界による「冬の見本市」、専門家や学術研究者による「冬の都市フォーラム」が併せて開催されるようになり、「北方都市会議」は、もの、技術、情報が行き交う北方圏における大規模コンベンションに発展しました。

この北方都市間のネットワークをさらに強化し、北方圏全体の発展を目指して北方都市が連帯して行動するために、1994 年の第 6 回アンカレッジ会議において、会員制の組織として「北方都市市長会」が設立され、併せて、会議の名称も「北方都市市長会議」に変更されました。これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を分かち合い、まちづくりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

また、2002 年からは、会員都市の実務者による「実務者会議」が毎年開催されるようになり、市長会議に加え、実務者レベルでも話し合いが行われるようになりました。

さらに、2004 年に再びアンカレッジで開催された第 11 回会議において、冬の課題を抱えるより多くの都市と“快適な冬のまちづくり”に関する課題について話し合うために、会員の対象範囲を北方地域以外の都市にも拡大することとし、会の名称も「世界冬の都市市長会」に変更されました。また、市長会の活性化を図り、その魅力をさらに高めるために、「世界冬の都市市長会活性化計画」が採択され、この活性化計画に基づいて、世界の“冬の都市”と連携し、持続可能な社会を目指して地球環境問題や冬の市民生活の向上に取り組み、世界に向けて市長会の活動をアピールしていくことが決議されました。

そして、2017 年には、第 1 回会議以来 34 年ぶりに、始まりの地である「札幌」で市長会議を開催し、「冬の都市から発信する特色あるまちづくり」という新たな議論の方向性を示すことで、「世界冬の都市市長会」は、新たなステージへと踏み出しました。

なお、「世界冬の都市市長会」の会長は、北方都市市長会の設立当初から現在に至るまで札幌市長が務め、札幌市国際部に事務局が置かれています。

冬の都市とは

“冬の都市”とは、「積雪または寒冷という気象条件の下でまちづくりを行う都市」のことを指します。

＊積雪の基準

1 年間のうちで積雪量の最大値が概ね 20cm（8 インチ）以上となること

＊寒冷の基準

1 年間のうちで最も寒い月の平均気温が概ね摂氏 0 度（華氏 32 度）以下となること

この基準はあくまでも目安です。この基準を満たしていなくても、まちづくりを行う上で冬に関する課題を抱えている“冬の都市”であれば本会に入会することができます。

世界冬の都市市長会の意義

国際社会の一員

近年、地球環境問題に代表されるように、世界の国や地域が協力して解決しなければならない課題が増えています。このような課題を解決するためには、国や国際機関だけではなく、地方自治体も『国際社会の一員』としてお互いに協力して課題に取り組んでいかなければなりません。

“冬の都市”もその役割と責任を果たすために、積雪寒冷という環境の中で培ってきた技術やまちづくりのノウハウに関する情報提供を行うなど、同じような課題を抱える会員都市に対して支援、協力を行っていく一方で、先駆的な会員都市から学んだ知恵や経験をまちづくりに活かすなど、『国際社会の一員』としてお互いに協力していきます。

まちづくり

海外都市との交流の成果は、様々な形でそれぞれの都市の『まちづくり』に反映されていますが、それは、必ずしも短期間に数値で表れるものだけではなく、長年の交流の成果が市民生活の向上に役立っているのです。

“冬の都市”が時間をかけてお互いに交流を行い、それぞれの都市の『まちづくり』にとって重要な有形、無形の財産を築いていきます。

フェイス・トゥ・フェイス

インターネットによるコミュニケーションが日常化している現代社会でも、課題を抱える市長同士が実際に集まって率直に話し合うことは重要です。

“冬の都市”の市長同士が、『フェイス・トゥ・フェイス』の交流を通じて、快適な冬のまちづくりに必要な情報や技術を分かち合っていきます。

会員都市一覧

世界冬の都市市長会会員都市 9 カ国 23 都市	2019 年 4 月現在
カナダ (2)	エドモントン、ウィニペグ
中国 (9)	長春、大慶、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、牡丹江、チチハル、瀋陽
エストニア (1)	ヴィームシ
フィンランド (1)	ロヴァニエミ
日本 (2)	松本、札幌
モンゴル (1)	ウランバートル
韓国 (3)	華川、麟蹄、太白
ロシア (3)	マガダン、ノリリスク、ノボシビルスク
アメリカ (1)	アンカレッジ

（ ）の数字はメンバー都市数

活動内容

世界冬の都市市長会議

世界冬の都市市長会議は、世界冬の都市市長会の主要事業として 2 年に 1 回開催されます。

会議では、市長同士がまちづくりに関する取り組み事例を紹介し、情報や技術を交換し合うとともに、快適な冬のまちづくりに向けて議論します。

会議には、原則として市長本人が出席します。また、会員都市以外の都市もオブザーバーという資格で会議に出席することができます。

第 17 回世界冬の都市市長会議
（2016 年 7 月日本・札幌）

会議の開催市は、立候補した会員都市の中から総会の議決により決定されます。2018 年の第 18 回会議は中国の瀋陽市で、2020 年の第 19 回会議はフィンランドのロヴァニエミ市で開催されることが決定しています。

● 会議開催状況

会　議　名	開　催　市	期　間	参加都市数
第 1 回北方都市会議	札幌	1982/ 2/ 7～10	6 カ国 9 都市
第 2 回北方都市会議	瀋陽	1985/ 9/19～22	6 カ国 10 都市
第 3 回北方都市会議	エドモントン	1988/ 2/13～15	12 カ国 17 都市
第 4 回北方都市市長会議	トロムソ	1990/ 3/ 2～ 4	10 カ国 20 都市
第 5 回北方都市市長会議	モントリオール	1992/ 1/17～21	11 カ国 34 都市

第 6 回北方都市市長会議	アンカレッジ	1994/ 3/ 5～10	10 カ国 30 都市
第 7 回北方都市市長会議	ウィニペグ	1996/ 2/ 9～12	9 カ国 33 都市
第 8 回北方都市市長会議	ハルビン	1998/ 1/15～18	10 カ国 49 都市
第 9 回北方都市市長会議	ルレオ/キルナ	2000/ 2/12～16	10 カ国 26 都市
第 10 回北方都市市長会議	青森	2002/ 2/ 7～10	13 カ国 28 都市
第 11 回北方都市市長会議	アンカレッジ	2004/ 2/18～22	11 カ国 27 都市
第 12 回世界冬の都市市長会議	長春	2006/ 1/15～18	13 カ国 29 都市
第 13 回世界冬の都市市長会議	ヌーク	2008/ 1/18～20	8 カ国 22 都市
第 14 回世界冬の都市市長会議	マールドゥ	2010/ 1/20～22	11 カ国 18 都市
第 15 回世界冬の都市市長会議	ウランバートル	2012/ 1/13～15	7 カ国 13 都市
第 16 回世界冬の都市市長会議	華川	2014/ 1/16～18	4 カ国 12 都市
第 17 回世界冬の都市市長会議	札幌	2016/ 7/27～30	8 カ国 32 都市
第 18 回世界冬の都市市長会議	瀋陽	2018/ 9/12～14	20 カ国 47 都市

● **これまでの市長会議で議論されたテーマ**

◇第 1 回札幌会議

・北方における都市づくりの方向
・北方都市の交通問題
・北方都市の住環境整備
・北方の芸術、文化、スポーツ、レクリエーションの振興

◇第 2 回瀋陽会議

・北方都市の設計と建設
・北方都市におけるエネルギー利用と経済発展
・北方都市の緑化と文化活動
・北方都市における水資源の開発・利用と文化遺産の発掘保存

◇第 3 回エドモントン会議

メインテーマ：『ビジネス・オブ・ウィンター』
・経済発展～北方都市の可能性
・環境～健康な冬の都市をめざして

◇第 4 回トロムソ会議

メインテーマ：『暖かな冬の都市～暮らしの向上と経済発展』
・冬の都市交通
・総合的な街づくり
・冬の技術開発
・小都市の挑戦
・冬の都市の芸術・文化

◇第 5 回モントリオール会議

メインテーマ：『冬と調和した暮らし』
・環境
・都市計画
・健康と体力づくり

◇第 6 回アンカレッジ会議
メインテーマ：『未来を求めて北へ』
・コミュニケーション「コミュニケーション・テクノロジーの発達」
・輸送「国際航空産業」
・健康「地球の気候変動」
・ビジネス「冬の観光市場」
◇第 7 回ウィニペグ会議
メインテーマ：『グローバル・リビング～冬の都市の生活と労働、余暇』
・経済振興「北方都市の経済活動の発展をめざして」
・アクセシビリティ「冬の都市における交通とアクセシビリティ」
・余暇とレクリエーション「長期計画における余暇とレクリエーション施策」
◇第 8 回ハルビン会議
メインテーマ：『みんなで多姿多彩の北方都市を創りあげよう』
・高齢者と子どもにとって冬とは
・冬の観光資源の開発と利用
・氷と雪の文化芸術の振興
◇第 9 回ルレオ/キルナ会議
メインテーマ：『冬の都市における持続可能な開発－』
・自然災害時における相互支援体制
・除雪体制と市民参加
◇第 10 回青森会議
メインテーマ：『豊かな北の暮らしを育む～環境・文化・生活～』
・中心市街地の活性化
・環境負荷の小さい都市システム
◇第 11 回アンカレッジ会議
メインテーマ：『未知なる冬への挑戦』
・冬の都市デザイン：サテライトタウンセンター
・市の行政サービスと地域開発におけるスポーツコミュニティーの役割
◇第 12 回長春会議
メインテーマ：『冬における発展』
・冬季における環境問題について
・冬季の市民生活における課題の克服について
◇第 13 回ヌーク会議
メインテーマ：『北極圏における気候変動』
・気候変動と北極圏における若者の生活環境
・冬の都市における地球温暖化対策
◇第 14 回マールドゥ会議
メインテーマ：『北の都市における環境保全の特性』
・冬の都市の多文化社会
・電子情報化社会
◇第 15 回ウランバートル会議
メインテーマ：『冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的な利用』
・熱エネルギーの効率的な利用
・電力の効率的な利用
・冬の都市における大気汚染と対策

◇第 16 回華川会議

メインテーマ：『冬の都市におけるありのままの自然と資源としての自然を保全し、それらを将来に渡って活用していける有効な方法について』

・資源としての自然を活用した観光コンテンツの充実と観光産業の促進

・自然環境保護活動を通した「冬の都市」のイメージアップ

◇第 17 回札幌会議

メインテーマ：『冬の都市のまちづくり ～ 独自性とその魅力 ～』

・冬を活用したまちづくり

・冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり

・冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり

◇第 18 回瀋陽会議

メインテーマ：『冬の都市の暮らしをより良くしよう！』

・冬のまちづくりにおけるイノベーション

・冬のスマートシティの創造

・冬の都市における持続可能なまちづくり

・幸せで美しい冬の都市を作ろう

冬の見本市と冬の都市フォーラム

（１）冬の見本市

市長会議の開催市は、会議の併催事業として冬の見本市を開催することができます。開催市および会員都市の企業や団体が中心となって出展し、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うなど、冬の都市による経済交流の場として重要な役割を果たしています。

冬の見本市
（2012 年 1 月モンゴル・ウランバートル）

冬の見本市
（2016 年 7 月日本・札幌）

（２）冬の都市フォーラム

市長会議の開催市は、会議の併催事業として冬の都市フォーラムを開催することができます。様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、冬のライフスタイルやまちづくりなどについて発表を行い、一般参加者とともに意見交換を行います。

冬の都市フォーラム
（2016 年 7 月日本・札幌）

実務者会議

会議は原則 2 年に 1 度、事務局都市で開催されることとなっており、次期市長会議の開催計画案や市長会議で市長が議論するテーマの選定、さらに、市長会の運営などに関して実務者レベルで協議を行います。

2018 年実務者会議
（2018 年 1 月日本・札幌）

● 会議開催状況

会　議　名	開催市	期　　間	参加都市数
2002 年実務者会議	札幌	2002/ 7/3～4	7 カ国 10 都市
2003 年実務者会議	ウランバートル	2003/ 9/13～16	6 カ国 9 都市
2004 年実務者会議	長春	2004/ 7/15～17	6 カ国 10 都市
2005 年実務者会議	太白	2005/ 7/13～15	8 カ国 12 都市
2006 年実務者会議	ヌーク	2006/ 7/25～27	5 カ国 6 都市
2007 年実務者会議	札幌	2007/ 7/26～28	8 カ国 12 都市
2008 年実務者会議	ﾌﾟﾘﾝｽ・ｼﾞｮｰｼﾞ	2008/ 8/21～22	9 カ国 12 都市
2009 年実務者会議	トロムソ	2009/ 8/19～21	6 カ国 9 都市
2010 年実務者会議	ウランバートル	2010/ 7/8～10	6 カ国 9 都市
2011 年実務者会議	札幌	2011/ 7/29～30	7 カ国 14 都市
2012 年実務者会議	華川	2012/ 8/3～5	6 カ国 13 都市
2013 年実務者会議	札幌	2013/ 8/1～2	7 カ国 15 都市
2015 年実務者会議	札幌	2015/ 7/30～31	6 カ国 16 都市
2018 年実務者会議	札幌	2018/ 1/25～26	5 カ国 15 都市

小委員会

1990 年にノルウェーのトロムソで開催された第 4 回北方都市会議から、行政実務者および技術者が専門的な技術・情報の交換、調査・研究を行うための機関として小委員会が設置されました。

● これまでの小委員会活動

名　　称	設置期間	事 務 局 都 市
冬季都市環境問題小委員会	1990/3 - 1993/9	札幌
ウィンターネット小委員会	1994/3 - 1998/1	エドモントン
リサイクル小委員会	1994/3 - 2000/2	ルレオ
観光促進小委員会	1996/2 - 2000/2	アンカレッジ
経済振興小委員会	1996/2 - 2000/2	トロムソ
雪対策小委員会	2000/2 - 2004/2	プリンス・ジョージ
自然災害対策小委員会	2000/2 - 2004/2	札幌
持続可能な冬の都市づくり小委員会	2002/2 - 2006/1	青森
テロ対策小委員会	2002/2 - 2006/1	アンカレッジ
冬の都市環境問題委員会	2006/1 - 2010/1	札幌
自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会	2008/1 - 2012/1	アンカレッジ
環境保全小委員会	2010/1 - 2014/1	長春
北極圏デザイン小委員会	2015/2 -	ロヴァニエミ

環境保全小委員会
（2014 年 1 月華川市長会議）

北極圏デザイン小委員会
（2016 年 7 月札幌市長会議）

活性化事業（旧：共同事業）

（１）2004 年の第 11 回アンカレッジ会議において、会員都市が共同で観光 PR や文化交流などの事業に取り組んでいくことが決議されました。それを受け、2006 年まで次のとおり、共同事業を実施いたしました。

● 共同事業実施状況

事　業　名	開催市	期　　間	参加都市数
2002 年共同観光 PR 事業	日本・横浜	2002/ 9/20～22	6 カ国 9 都市
2004 年共同観光 PR 事業	日本・東京	2004/ 9/24～26	4 カ国 6 都市
2005 年共同観光 PR 事業	日本・東京	2005/ 9/22～24	5 カ国 6 都市
2006 年共同観光 PR 事業	中国・北京	2006/ 6/22～24	3 カ国 5 都市

＊ 2002 年共同観光 PR 事業は、アンカレッジ会議での決議に先立って試行的に実施しました。

（２）2007 年の札幌実務者会議において、共同事業を活性化事業に改め、世界冬の都市市長会をより積極的に広報するため、ホームページの充実やパンフレットの作成に力を入れることにしています。

（３）2010 年のウランバートル実務者会議において、韓国・華川郡の「世界冬の都市市長会 PR プロジェクト」の実施が決まり、会員都市から提供を受けた伝統衣装、工芸品等の展示を行いました。華川郡の活性化事業は、2014 年まで実施されました。

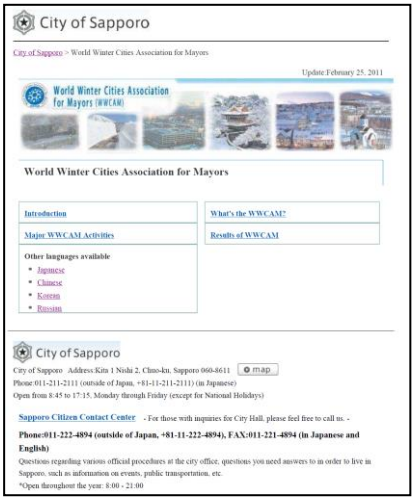
伝統衣装や工芸品の展示

シンポジウムの様子

（４）2016 年の札幌市長会議において、札幌市が事務局を務め、「国連広報局年次総会の活用に関する調査研究事業」を実施することが決まりました。

広報

（１）ホームページ



世界冬の都市市長会のホームページ。日本語、英語、中国語、韓国語、ロシア語の 5 言語に対応しており、世界冬の都市市長会の活動内容や、最新の市長会議の情報を掲載しています。

ホームページアドレス

http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/

（２）ニュースレター

● **World Winter City News**

世界冬の都市市長会の活動や会員都市の紹介、冬の都市の技術や情報を掲載した広報誌（英語版及び日本語版）。年に 1 回または 2 回発行し、世界の冬の都市や学術・研究機関などに送付しています。なお、この広報誌はインターネット上でも閲覧することができます。

ホームページアドレス（広報誌）

http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/news-j.html

国連登録 NGO

世界冬の都市市長会は、1997 年より国連の広報局および経済社会理事会に NGO として登録されています。今後は、その特性を活かして国連との連携を深めていく予定です。

組織と運営

構　成

世界冬の都市市長会は、会員都市をもって構成され、その代表者を市長としています。

役　員

会長 1 名、副会長 3 名（南北米、アジア・オセアニア、ヨーロッパから各 1 名）、理事 2 名、監事 1 名がそれぞれ総会において選出されます。

● 現行役員一覧

会　長	札幌市長
副会長	エドモントン市長［南北米地域］
	華川郡首［アジア・オセアニア地域］
	ロヴァニエミ市長［ヨーロッパ地域］
理　事	瀋陽市長［2018 年第 18 回会議開催市］
	ロヴァニエミ市長［2020 年第 19 回会議開催市］
監　事	ハルビン市長

総　会

総会は、市長会議の開催にあわせて 2 年に 1 回、会長が招集し、市長会の予算、事業計画などを決定する最高の意思決定機関です。

役員会

役員会は、必要に応じ、総会にあわせて 2 年に 1 回、会長が招集します。

事務局

事務局は札幌市総務局国際部内に置かれ、事務局長は札幌市総務局市長室長が務めています。

市長会の運営

市長会の事業執行に必要な経費は、会員の会費、寄附金、繰越金その他の収入をもって支弁します。また市長会の収入は、市長会議、実務者会議、小委員会、活性化事業および事務局の経費として配分されます。

	予算配分率
市長会議関係費	60%
実務者会議関係費	10%
活性化事業関係費	15%
事務局関係費	10%
小委員会関係費	5%

会員になるには

入会手続き

会員になるには、入会しようとする都市の市長が会長に入会を申請し、役員会で入会が決定されます。

会 費

会員都市は、下表のとおり都市人口と国民 1 人あたりの国内総生産額（GDP）を基準として算出される年会費を毎年 1 月 1 日から 3 月 31 日までの期間にアメリカ・ドル建てで払い込まなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

年会費（1 月 1 日～12 月 31 日）

（単位: US$）

人 口 ＼ GDP	0-9,999	10,000 以上
0 - 499,999	1,000	2,000
500,000 - 999,999	1,500	4,000
1,000,000以上	2,000	6,000

会員は、上表により、その国のひとりの国内総生産額と都市人口に応じた年会費を収めるものとする。これらの 2 つの数値は、以下の資料に基づく。

（1） 各国のひとりあたりの国内総生産額（GDP = Gross Domestic Product）
数値の出典： 国連「Statistical Yearbook」

（2） 都市人口（市域の人口であり、都市圏の人口は含まない）
数値の出典： 国連「Demographic Yearbook」
上記資料に人口が未掲載の都市は、各都市の申告に基づく。

会員になると

会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用して様々な分野で個別に交流をすることができます。

入会の申込みと連絡先

世界冬の都市市長会事務局 ： 〒060-8611札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
札幌市総務局国際部内
TEL: (011)211-2032　FAX: (011)218-5168
E-mail: wwcam@city.sapporo.jp
http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/

主な活動成果（会員都市へのアンケート調査の結果に基づいています）

総体的成果

（１）国際的地位の向上および国際交流の推進

［プリンス・ジョージ］

市長会の活動、特に 2000 年 10 月にはじめて札幌以外で幹事会を開催したことにより、ほかの都市にプリンス・ジョージを知ってもらうことができました。

［ハルビン］

1998 年にハルビンで開催した第 8 回会議を通じて、ハルビンの名前を北方圏の諸都市に PR することができました。

［瀋陽］

1985 年に瀋陽で開催した第 2 回会議を通じて、瀋陽の評価を高め、会員相互の理解と親交を深めることができました。また、国際会議を開催するためのノウハウを蓄積することができました。

［キルナ］

市長会を通じた国際交流の経験自体が大きな成果です。

（２）情報の共有

［チチハル］

共通の自然環境をもつ北方都市間での技術や情報の交換が、様々な分野で役立っています。

［瀋陽］

市長会の活動を通じて、北方都市に共通する課題を解決するための有効な情報を得ることができました。

［キルナ］

同じような気象条件をもつほかの都市がどのようなことをしているのかを学び、必要な時に必要な知識を得ることができるようになりました。

具体的な活用事例（先進事例の研究および実用化）

（１）冬の観光資源の活用

［長春］

2000 年の第 9 回会議に参加するためにキルナを訪れた際、アイスホテルに関心を持ちました。南方から観光客を誘致する施策の参考となりました。

［ハルビン、チチハル］

会員都市を相互に訪問し、自分の都市の冬をさらに魅力的にするための経験や知識を得ることができました。たとえば、札幌から雪や氷を観光資源として活用して成功させた事例を学びました。

［瀋陽］

1998 年にハルビンで開催された第 8 回会議で冬の文化活動を豊かにするための新たなアイディアを学び、氷と雪のプロジェクトを実施しました。

［ウランバートル］

2002 年 2 月に札幌で開催された雪まつりに職員を派遣し、そのノウハウを学び、2003 年にウランバートルではじめて雪まつりを開催しました。

［キルナ］

札幌の雪まつりから雪氷像製作のノウハウを学び、冬にアイスホテルを建て、観光客の誘致を図っています。

（２）人事交流

［プリンス・ジョージ、キルナ、ルレオ］

2000 年にプリンス・ジョージで開催した幹事会を機に、プリンス・ジョージ、ルレオ、キルナおよび米国ミシガン州マーケットと除雪技術の交流に係る盟約を交わし、職員の相互派遣を実施しました。

［プリンス・ジョージ、青森］

雪対策小委員会の事業として、2003 年にプリンス・ジョージと青森の間で除雪担当職員の人事交流を行い、除排雪に関する施策や技術などを学び合いました。

［ウランバートル］

2001 年より、毎年、約 6 か月間札幌市に幹部職員を派遣し、文化、清掃、除雪、行政管理など、様々な分野で研修を受けています。

（３）青少年交流

［青森、ルレオ］

ルレオと青森の小学生がインターネット会議を 2001 年に行い、お互いの町や学校生活、文化、遊びなどを紹介し合い、理解を深めました。

（４）文化交流

［青森］

2002 年に青森で開催した第 10 回会議の併催事業として、北方都市美術展を開催しました。北方地域独特の風土と民族性に育まれた高い芸術性、文化性を再認識するとともに、文化面での相互理解を深めることができました。

（５）基盤整備

［ジャムス］

1996 年に道路調査団をアンカレッジに派遣し、厳冬期に道路の亀裂が発生するのを防止するための道路建設技術と除雪方法を学び、それらを採用しました。

［チチハル］

2001 年にスウェーデンを訪問し、チチハルの都市環境を改善するめに、地熱エネルギー、緑化、住宅建設などのプロジェクトについて商談を進めました。

［キルナ］

プリンス・ジョージで開発された間口除雪(住宅の玄関に雪山を残さない除雪方法)の機材を導入しました。

［青森］

・ナトリウム灯の導入

アンカレッジで使用されている高圧ナトリウム灯を採用し、街路灯の新設および更新の時期にナトリウム灯の導入を推進しています。

・自然エネルギーを利用した雪処理施設の整備

2000 年にルレオ・キルナで開催された第 9 回北方都市市長会議のフォーラムで発表された「海水熱源を利用したロードヒーティング」を実用化し、中心市街地の歩道に敷設しました。また、同じく自然エネルギーである地熱を利用したロードヒーティングを中心市街地へ施工するなど、環境に優しい融雪システムの導入を推進しています。

・市民雪処理モラルアップの推進

民間団体の「北国のくらし研究会」は、プリンス・ジョージで除排雪に従事する行政および民間の作業員の士気高揚を目的として自主的に結成された「スノーフォース(従事者の統一ユニフォームの着用など)」をモデルとして、市民の雪処理に対するモラルの向上を図るため、地域の除排雪などを進んで行っている一般市民の活動を広く知らせ、顕彰する「スノーナイト(Snow Knight)顕彰事業」を実施し、ユニフォームの贈呈などを行っています。

［札幌］

・常緑樹の活用

敷地内への風雪を防ぎ、景観上の美観を保つために、常緑樹を幹線道路の中央分離帯等の公共用地に植樹しています。常緑樹を多用しすぎると敷地内が暗くなるとともに、街路樹に活用した場合、樹木の上に雪が積もり落雪の危険性があることから、用途に応じて常緑樹と落葉樹を使い分けています。

・スパイクタイヤの規制

スパイクタイヤは車の制動に非常に効果がある反面、舗装路面を削りとるため膨大な路面補修費が必要になります。また、騒音や粉じんなどが発生し、環境に悪影響を及ぼすという問題があります。このような状況の下、1982 年に札幌で開催された第 1 回会議においてスパイクタイヤ問題に関するほかの都市の事例が紹介されました。このことに勇気づけられた札幌市は、スパイク問題対策への本格的な第一歩を踏み出し、法律や条例の制定に積極的に取り組んだ後、1990 年にスパイクタイヤの全面禁止を実現させました。

・水力発電の導入

省エネルギー対策として、1984 年から藻岩浄水場で発電を実施しています。発電量は 330kWh（一般家庭 100～150 世帯程度が消費する電気量に相当）。

・ナトリウム灯の導入

省エネルギー対策および降雪時の視認性向上のために、街路灯を水銀灯からナトリウム灯に変更しています。2003 年 4 月現在、ナトリウム灯の球数は、市内の街路灯全球数 96,874 球の約 73%に相当する 70,795 球。ISO14001 推進の観点からも今後も積極的にナトリウム灯の導入を図っていきます。

・スノーホッケーの普及

四季を通した生涯スポーツの振興のために冬でも気軽にできるスポーツとしてスノーホッケーを考案し、「第 1 回札幌市長杯スノーホッケー大会」を 1983 年に開催しました。同大会は継続して開催されており、2003 年には第 20 回大会が開催され、小学生を中心とする男女 57 チーム、580 名の選手が参加。スノーホッケーは冬の子ども達のスポーツとして定着しています。

・歩くスキーの普及

冬季間における市民のレクリエーションおよびスポーツ振興のために、1983 年に中島公園内に歩くスキーの常設コースを整備しました。現在、初心者用の 1km コースが設定されており、12 月から 3 月までスキー板/靴 150 セットの無料貸し出しを実施しています。市内には 14 の常設コースが整備されています。

・公園の冬季開放および木製遊具の導入

冬でも児童が戸外で遊べるように、1983 年より公園への木製遊具の導入と公園の冬季開放を積極的に行い、昭和 60 年代(1985 年～)には多くの公園で冬季間の利用が促進されました。その一方で、児童が遊ぶために除雪されたスペースが雪捨て場として利用されるようになり、遊具の維持コストも含めて、克服しなければならない課題もあります。

・市民と行政の役割分担

公園の効率的な運営を行うとともに、市民参加の機会を拡大するために、市民と行政が協力して公園を管理しており、1 年に 3 回実施する児童公園の清掃、草刈などの業務を町内会に委託しています。

・都市景観形成

快適な都市環境の創造と市民文化の向上を図るためには、建物の色彩、形態などに配慮し、北方都市らしい魅力的な都市景観を形成することが重要です。札幌市は、1982 年に開催された第 1 回会議において紹介された都市景観に関して、ほかの都市の事例を参考として都市景観形成に関する本格的な第一歩を踏み出し、1983 年に「都市景観賞」を創設、1998 年には「都市景観条例」を施行しました。

世界冬の都市市長会
入会申請書

1. 都市名: _____

2. 国　名: _____

3. 市長（町長、村長）: _____

4. 貴市における市長会の担当部局名: _____

   責任者役職名・氏名: _____

   電　話: _____

   FAX: _____

   e-mail: _____

   貴市のホームページ URL: _____

   住所（文書送付先）: _____

   _____

   _____

   _____

5. 人　口: _____（　　年　　月現在）

6. 貴市における現在の最重要課題は何ですか？ _____

   _____

   _____

7. 市長会議で取り上げてほしいテーマは何ですか？ _____

   _____

   _____

   日　付: _____　　市長署名: _____

※貴市の市政概要（Annual Report）を必ず添付してください。

送付先:　世界冬の都市市長会事務局
札幌市総務局国際部内
〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
電話:　(011) 211-2032
FAX:　(011) 218-5168
e-mail: wwcam@city.sapporo.jp